

114  
A 3527



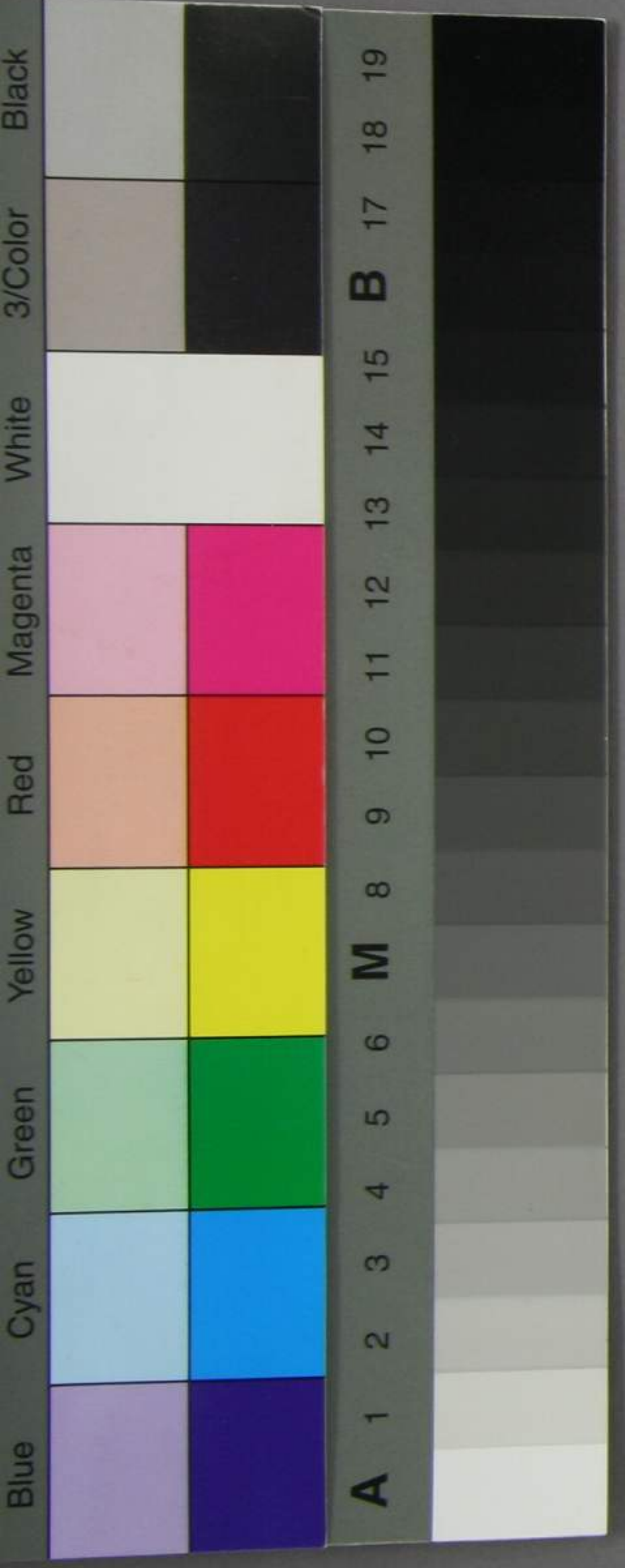
八百八十一年三月十二日横濱刊行「ジャッパンガ  
マツト」新聞抄譯

貿易并ニ通用貨幣論ノ續

歴史其三

余輩前週ニ於テ既ニ此歴史ヲ考定シ而シテ洋銀ノ一  
千八百五十九年(安政六年)ニ於テ初テ日本ニ輸入シ日  
本銀貨ノ價格ヨリモ三倍高價ノ流通ヲ得タル其許諾  
ノ不注意ナル處置ヲ詳明スヘキヲ登記セシカ故ニ今  
斯ニ其事ヲ詳明スルト左ノ如シ  
右許諾ノ廉ハ一千八百五十八年七月二十九日江戸ニ  
於テ調印セシ米倉衆國定約ノ第五款ニ掲載セリ(但シ  
此ノ款條ノ意ハ其後自餘ノ各國ト取結ビシ定約書中

大正十一年四月贈



ニ於テモ同様ナリ)而シテ其款條タルヤ各港ノ開港後  
一年間ハ日本政府ハ日本貨幣ヲ以テ外國貨幣ト交換  
為ス一ニ但シ日本貨幣ハ其外國貨幣ト同量ニシテ  
尙後鑄替ノ為メニ手數料ヲ要スルヲオカル一ニ而シ  
テ日本貨幣ハ其種類ノ何タルヲ問ハス(但シ銅貨ハ此  
限ニ非ラス)外國へ輸出スルヲ得ベシ云ナリ  
右款條ノ影響タルヤ直ニ外國人ニ於テ非常ニ日本金  
貨ヲ需要スルノ勢カヲ増盛セリ當時流通セル窠モ下  
等ノ小板金ニシテ洋銀四個以上ノ直價ヲ有セリ然ル  
ニ此定約ニ從一ハ洋銀ハ日本貨幣ト同量ニシテ日本  
政府ノ交換セサルヘカラサル所ナリ故ニ洋銀一個  
ニ付キ日本銀三分ト拾七錢ノ割合ト定メラレタリ然  
リ而シテ右等ノ銀四個ハ七兩即チ小板金一個ニ相當

ス一ニ故ニ洋銀ヲ七分銀ニ引直シタルニ即チ洋銀  
凡ソ七弗三拾錢ヲ以テ洋銀四弗以テ價直ニ相當ス  
ル小板金ヲ買フヲ得ヘキ割合ナリキ敏捷ナル外國人  
ハ速ニ右ノ如キ贏利投機ノ便宜ヲ發見シテ非常ニ其  
大利ヲ擷取スルヲ強メタリ然レハ小板金ノ較ヤ世間  
ニ稀少ナルカ故ニ日本政府ハ其定約アルニ拘ハラズ  
嚴ニ外國人ニ小板金ヲ賣与スルヲ禁セシカ故ニ右ノ  
如キ廉價ニテハ唯タ小額文ヲ買收スルヲ得ルノミナ  
リキ或ハ一片ノ小板ヲモ買フヲ得サルニ至レリ然レ  
ハ尙分銀八個(日本小板ノ通用相場ノ二倍)ニテナラハ  
巨額ノ小板金ヲ買フヲ得シ日本商人ハ此ノ二倍ノ  
大利ヲルカ故ニ圖禁ヲ犯シ生命ヲ忘レテ此商賣ニ從  
事スルニ至レリ

事物ノ情勢右ノ如クナルカ故ニ其第一年間外國人  
日本ニ於テ為シ商業ノ策大ナルモハ唯々金貨  
買收ノ一事ナリキ而シテ此第一年間ニ於テ小板金ノ  
外國ニ輸出セシ金高ハ屹度尙百万弗以上ナルヘキヲ  
信スルナリ日本政府ハ大ニカヲ尽シテ此金貨濫出ノ  
貿易ヲ停止セント為シカモ外國人日本人共雙方ナ  
クテ贏利ノ為メニ誘惑セラル、時節ナルカ故ニ勿論  
其効ナカリシヲ見ル而シテ引續テ洋銀ハ日本ニ流入  
シ金貨ハ外國ニ流出セリ然レモ一千八百六十年(我カ  
万延元年)ノ初メ頃日本政府カ令(但シ此日本政府ノ處  
置ハ米合衆國公使カ其日本政府ニ要請シ得タル日本  
政府ノ許諾ノ影響タル右ノ如キ場合)至リシカ故ニ  
日本政府ノ為ニ安ンセサル所アリテ忠告セシニハ非

ナル乎)ヲ出シテ分銀ノ小板金ニ於ケル價格ハ尙分銀  
十二個ヲ以テ小板金一個ニ當ルヘシト為セシ時ニ至  
テ右ノ流入流出ノ下屏息シ勿論右且シカラサル商賣  
ハ直ニ撲滅スルニ至レリ  
當時右ノ商業ニ付テ意見ヲ冊子上ニ登録スルモノヲ  
見ルニ随分愚昧ノ見解ノミヲ登記セリ而シテ其論者  
タルモノ多クハ事實ニ注意ナク唯ニ日本ニ付テ奇談  
ヲ記載スルノミニテ金貨ノ日本ニ於ケル相場ハ自餘  
ノ外國ニ於ケルヨリモ廉價ナリト云フニ過キサル錢  
見者ノ嘖々タルノミナリ  
右ノ如キ愚昧ナル論者ノ見解トハ相違シテ其事タル  
全ク金ノ銀ニ於ケル價格カ日本ニ於テ自餘外國ニ  
於ケルカ如ク大抵同一ナリト云フニテアリキ即

チ金一ト銀十六トノ割合ナリ然レ氏日本銀貨  
高價ニシテ(前第一篇ニ於テ既ニ詳記セリ)洋銀ト平  
切ラ得サルカ為ニ起源シテ洋銀ノ價直遽ニ騰貴シ三  
倍ニ至レリ此故ニ外國人ハ其洋銀ヲ以テ日本政府ニ  
於テ洋銀同量ノ壹分銀ト交換シテ得ル所ノ利益ハ日  
本政府鑄造ノ銀貨ヲ販賣スル日本人ヨリモ巨大ナリ  
シ而シテ外國人ハ此利益(三倍)ヲ以テ金貨或ハ他ニ非  
常ニ廉價ノ品アレハ何カニテモ買收スルヲ得シ但  
當時日本ニ於ケル通用相場ノ二倍ヲ拂フモ猶ホ日本  
物品ノ價直ハ外國人ニ取リテハ廉ナレハナリ  
一千八百五十九年ニ於テ日本ニ在留セシ外國人カ此  
高賣ヲ為スニ付テ其利益ハ米合衆國定約ノ第五款中  
ニ掲載セル約束ヨリシテ得ル所ノモノナレハ充分法

則ニ協ヲタレ利益ナルニ右等ノ情實ノ既ニ能ク確知  
スルノ記者輩ニシテ大ニ右ノ外國人ノ怨惡セリ抑モ  
日本政府ハ制限ナク同量ノ壹分銀ヲ以テ洋銀ト交換  
スヘキ旨ヲ右ノ定約ニ由テ約束セシノミナラス猶ホ  
又々日本貨幣ヲ勝手ニ輸出スルヲ約束セリ故ニ外  
國人ノ右定約ニ由テ贏利ヲ享ケント考定セシモノハ  
蓋シ充分其権限内ノ事ニテアリキ即チ「イ、ジ、リ」  
ド君共ニ自餘思考カニ乏シキ論者ノ喋々スルハ外國  
人ノ用ユヘキ権限ヲ喋々スルニ外ナラサルナリ日本  
政府ハ當時日本人民ノ外國人ニ金貨ヲ賣与スルモノ  
アレハ搜索シテ嚴酷ニ之ヲ罰シ商業ヲ防歴シ輸出ヲ  
禁セント強メタリ初メ自カラ明ニ之レヲ許諾シナカ  
ラ又々自カラ斯ノ如キ處置ヲ為ス是レ即チ取りモ

直サス日本政府自カシ其定約ヲ破ルモノト云フモ  
敢テ事實ニ違背セシトハ非サルヘシ  
日本政府ニ於テハ尙分銀ノ洋銀ト交換ヲ要スルハ終  
ニ小額ノトノミナルヘシト預定セシニモ拘ハラズ非  
常ナル巨額ノ洋銀ヲ以テ其交換ヲ日本政府ニ申シ出  
セシキニ於テ日本政府驚愕セシトアリト云フハ必然  
充分ノ信用ヲ置ニ足レリ猶ホ又タ外國人カ貪欲ヲ恣  
ニレテ遠慮會釋ナク洋銀交換ヲ要請シ不幸ナル日本  
官吏ニ逼迫セシトアリト云フハ誣言ニ非サルヘシ然  
レ氏外國人カ自然ノ熱心ニテ其法則ニ從フタル利益  
ヲ獲取シテ遺ス所ナク尙分銀ヲ熱望スルノ甚レキ其  
亦遂ニ痛耻ヲ破リ屢ニ不法ヲ働クニ及ブモノハ其害  
患ク不立ナル日本官吏ノ蒙マル所トナレリ然レ氏交

換即チ金貨ヲ買收シ之レヲ輸出スルニ定約ニ準據  
ヤスシノ商業ヲ營為シタルトハナカレシナリ蓋シ此  
定約アルカ為ニ此國ニ來ルヲ得ヘク又タ銀貨ヲ船載  
スルヲ得ヘシ而シテ當時生命財產共ニ充分危険ナル  
モ唯タ此定約ニ從テ安全ヲ得ヘキモノナルカ故ナリ  
然レ氏日本ニ於ケル外國貿易ノ初メニ當テハ金貨自  
様自餘ノ産物一切外國人ニ取リテハ全ク廉價ナリシ  
ハ竊ニ注目ヲ要スル重要事件ナリ夫レ外國輸出ノ為  
ニ金貨ヲ以テ第一ノモノト為シタルハ蓋シ其價格ヲ  
世人能ク承知シテ速ニ其價アルヲ信セシカ故ナリ  
然レ氏其後速ニ生糸茶油類等迄モ之レヲ賣買シテ利  
益アルトヲ知ルニ至レリ而シテ此等物品ノ廉價ナリ  
シ理由ハ猶ホ金貨ニ於ケル理由ニ如クナリキ即チ外

國人ク右物品ヲ高價ノ洋銀ヲ以テ買フヲ得ヘキナ  
但シ此高價ノ洋銀、獨リ外國人ノミ其發行セシ政  
府ヨリ其銀錢ノ最初ノ價直ニテ買收スルヲ得ヘキモ  
ナリ右ノ情實ナルカ故ニ日本ノ物品ハ非常ニ廉價  
ニシテ外國人ノ為ニ大利ト成リタルハ怪ムニ足ラサ  
ル所ナリ

日本政府ノ為ニ謀ルニ當時右ノ如キ事物ノ情勢擾亂  
困難セルモノヲ回復救済スルニ適當ナル良法ハ高價  
ニ上レル銀貨ヲ流通ヨリ以テ成シ而シテ日本政府曾テ  
人民ニ強テ通用セシメタル右輕量銀貨ノ代リニ充分  
重量ノ銀貨ヲ造發セシナラハ是レ策上ナリシナルヘ  
シ而シテ若シ右造發ノトアリシトセ、外國人ハ直ニ  
日本貨幣カ外國貨幣ト平均ノ價格ナレバテ發見スヘ

シ此ニ至テ物價調和シ從テ金貨差ニ自益凡百ノ物價  
皆テ外國ノ銀價ニ於テ其正當ノ價格ヲ回復スルニ及  
ブヘシ而シテ仮令其爭充分ニハ行届カサルニモセヨ  
日本ニ於テ外國貿易ノ初ニ當テ世評ニ係ルカ如キ汚  
辱ナク外國貿易ニ從事ス、商人ヲ好テ誹謗スルカ如  
キ人々ノ口吻ヲ閉ツルヲ得タルナルヘシ  
然レ氏右等ノ如キ救済ノ方法アルトナカリシ即チ方  
法アルモ將軍政府ニ、適當セサリシナルヘシ恐クハ  
日本政府其銀貨ノ惡質ナルカ故ニ曾テ外國ニ流出シ  
タリタルモノヲ再度人民ノ流通ニ付スヘキ必要ノ方  
法ヲ得ルトナカリシナルヘシ此時一當テ日本政府ノ  
為ス所ハ何レノ場合ニ於テモ蓋シ適切ナル正鵠ヲ得  
サリシ而テ政府ノ處置ニ何程理アリトシテ考フルモ

到底人民ヲ撫育裨益スルモノトハ思ハレサル程ニテ  
アリキ然リ而シテ日本政府カ唯タ日本ヨリ金貨ノ濫  
出スルヲ防廢スルノ一方ヨリシテ考定採用セシ第一  
ノ方法ハ則チ他ニ非ラス現行ノ金貨ノ價直ヲ騰涌セ  
シメテ三倍ニ至ラシメタルト是レナリ是レ蓋シ以前  
銀貨ノ價直ヲ三倍セシト同様ナリ而シテ今金貨價直  
ヲ三倍騰涌セシムルニ至リテハ獨リ金満家ノミ此處  
置ノ為ニ全ク其利益ヲ待タリ其準備金ヲ小板金ニ  
蓄藏スルモノハ壹分銀四個相当ノ小板金ヲ以テ遠ニ  
壹分銀十二個相当ノ價格トナスニ至リシカ故ニ寧早  
壹分銀八個又ハ十個ニテハ小板金ヲ賣ラサルトニ至  
リ而シテ日本政府ハ令ヤ外國人カ買收セシヨリモ  
高價ヲ出シテ金貨ヲ買收スルカ故ニ右不便利ノ貿易

商業ハ存息スルニ至レリ

然リト云ヒ日本人ニシテ金貨ヲ蓄藏スルトナク唯タ  
生糸茶若クハ自餘ノ商品ノミヲ有スル人ニ在テハ右  
ノ如キ政府ノ處置ノ為ニ好果ノ庇蔭ヲ蒙ルトナク  
自カラ困難ヲ救済スルノ策ヲ為スヨリ外ニ仕方ナク  
リシ其物品商業人ノ場合タルヤ自餘人民ト過不及  
キ困難ニ及ヘリ而シテ其販賣スヘキ商品ヲ蓄藏スト  
ハ臣民政府ノ庇蔭ヲ蒙ルトナキニ至テハ是レ又ク右  
同一ノトナリキ然リ而シテ此商人輩ハ久シク右不如  
意ノ苦海ニハ在ラステ富裕ノ身分トナレリ蓋シ日  
本政府心配ノ行届カサル困難ノ苦海ヲ外國貿易ノ為  
ニ自カラ救済スルヲ得タルナリ曾テ金貨需要ノ盛ナ  
リシカ氏此時ニ際シテ此金貨ノ需要一變シテ自餘ノ

高品ヲ需要スルニ及 從テ其價直騰貴セリ即チ生糸  
ニ買フニ其金貨騰貴 以前ハ每「ビ」ユルニ付テ洋銀  
貳百弗ナラハ生産者喜ンテ賣渡セシモノ金貨騰貴後  
ニ至リテハ千弗ノ價格ヲ要セシトマリ  
此時ニ當テ初テ健康ナル外國貿易ノ基礎ヲ置キ而シ  
テ日本ニ於テ隆盛ノ兆ヲ現ハレタリ然リ而シテ此時  
ニ際シテ封建制度地ニ落テ行政者顛覆ノ場合ニ至レ  
リ  
次ニ余輩ハ當時連續セシ此方ノ進步カ封建政府顛覆  
シテ王政ノ復古スルニ際シテ如何ニ關係ヲ有スル乎  
ヲ地テ詳論ヤントヌ然リ而シテ現今外國貿易ノ隆盛  
スルニ於テ日本官吏ハ今後此貿易ノ方向ニ付テ如何  
ニ針路 轉シテ日本人民ノ為ニ便利トテルヘキ方法

ヲ設立ムヘキ乎此ノ事ニ付テハ余輩充方ニ論及スル  
以アラントス  
現今ニ於テ余輩日本ノ貿易ヲ觀察スルニ前述ノ如ク  
外國銀カ高價(金貨)ニ自餘ノ商品トノ比較ニ於テ流  
通ヲ得テ一千八百五十九年開港ニ外國人ノ利益トナ  
リテ日本國ニ取リテハ大失錯トナリタレト日本ニ於  
テ此大失錯ナカリセハ此國ニ於テ外國貿易ノ端緒ヲ  
開クトハナカリシナルヘキヲ充分ニ信スルナク且ツ  
又タ此大失錯ナカリセハ日本ニ於テ外國貿易ノ基礎  
ヲ置クトハナカリシナルヘシ而シテ日本國ハ今日ニ  
至ル迄モ外國貿易ノ進步ヲ得ルチナク矢張り昔日和  
蘭人カ長崎出島ニ閉ジメラレテ獨リ日本政府カ專賣  
ノ權ヲ弄シタル商業ニ已ムヲ得ス從テ時ノ如ク



依然トシテ隆盛ニ進ノトナカリシナルヘキハ蓋シ疑  
ヲ容レサルヘシ又夕過シ十二ヶ年來事物ノ變遷ニ由  
テ多ノ日本人民カ如何ニ利益ヲ得レ乎如何ニ進歩シ  
タル乎是レ取リモ直ニ右ノ如ク速ニ外國貿易ノ開  
設ニ成リル直接ノ好果ナルヲ信スルナリ又夕外國商  
ハ日本ト不正ノ定約ヲ取結ヒ此ノ自國ニ便ナル定約  
ニ乘シ日本ト通商貿易シテ自利ヲ謀リタリト日本人  
ハ公言スレ氏是レ窠モ不正ノ私論ナルノミ然リ而  
テ外國人ハ日本國ヨリ其輸出セシ金貨ノ額數ヨリモ  
遙ニ巨額ナル銀貨ヲ夙ニ日本ニ輸入セシノミナリス  
猶ホ又夕自由先ニ目論見多キ精神ノ元素ヲ日本ニ移  
シリ但シ此ノ精神ハ終ニ日本人民ニ取リテハ金銀ヨ  
リモ貴重ナルトニ至ラサルヘカラサルモノナレハ前

件ニ付テ外國人ヲ非ナリトスルノ論ハ一言ニシテ其  
不正ノ私論タルヲ証スルノミナラス外國人ノ日本ニ  
功譽アル豈ニ偉ナラス哉

